

想定した品目 なし(露地)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模			経営・技術の特徴	
なし 露地150a (SS防除体系)	人 2.5	幸水(露地、無袋)	a	30	1.早生種～晩生種による収穫労力の分散と台風被害リスク軽減 2.「幸水」、「豊水」および「あきづき」はLED防蛾灯を設置し、無袋栽培による品質向上と省力化を図る 3.「豊水」、「あきづき」および「新高」は鉄パイプで棚面を補強し、台風による落果を軽減 4.温暖化により開花不良が発生しやすい「幸水」から「凜夏」への改植を推進	
		豊水(露地、無袋)		60		
あきづき(露地、無袋)		20				
新高(露地、有袋)		40				
合計		150				
		経営耕地面積	樹園地	150a		
経営目標	1	農業総収入	18,133 千円	4	1日当たり農業所得	19,802 円
	2	農業経営費	10,752 千円	5	1人当たり年間労働時間	1,193 時間
	3	農業所得	7,381 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐 用 年 数	年 間 償 却 額
						千円		千円
建物・施設	果樹棚	15	平棚鉄支柱	1		30,050	14	1,073
	棚補強パイプ(豊水、あきづき、新高)	12	31mm×4m鉄パイプ組み	1		2,153	14	77
	作業収納舎66㎡	1	軽量鉄骨	1		6,238	24	260
	計					38,441		1,410
農機具	スピードスプレーヤ(SS)	1	4WD 500L 12.5kw	1		2,750	7	196
	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1		1,500	4	188
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き	1		389	4	49
	刈払い機	1	排気量20.6cc	1		34	7	2
	花粉交配機	1	羽毛回転式	1		58	7	4
	ハンマーナイフモア	1	歩行用刈幅65cm、5.9kw	1		345	7	25
	薬採取機	1		1		148	7	11
	開薬機	1		1		231	7	17
	LEDシリンダー灯	11	10a当たり1セット6基(幸水、豊水、あきづき)	1		189	7	13
動噴	1	22L/min	1		154	7	11	
	計					5,797		515

3-1. 技術体系(なし:幸水、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	12～ 1月		1	70	70	誘引ひも 3巻	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に縮間伐を行う。 ・主枝数 3本 ・主枝・垂主枝の先端は強めに切り返す。 ・長大化した側枝は更新する。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断結果に基づいて施用する。 ・石灰質資材と肥料は施用間隔を2週間以上あける。 ・土壌改良資材は施用後、土とかき混ぜる。 ・2～3年に1回を目標に、樹間を部分的に軽く中耕する。
草生管理	草刈り	4月 ～ 9月	ハンマーナイ フモア	1	4	4	稲わら 1t	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の乾燥防止のため梅雨明け前に主幹周辺に敷きわらをする。 ・できるだけ草刈りを行い、地力増進に努める。
施肥	春肥 礼肥	2/上 8/下	運搬車	1	4	4	配合肥料 (N:8%)200kg	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の窒素分施割合 春肥:80% 礼肥:20% ・施肥量は土質、樹勢、収量等により調整する。 ・生育の旺盛な園では施肥量を控えめにする。
防除	薬剤散布	3～ 12月	SS	1	9	9	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生動向を十分に把握し、適期防除に努める。 ・無袋なので、特に輪紋病、黒星病、カラムシ類の発生に注意する。 ・薬剤散布は県病害虫防除基準による。
摘らい授粉	摘らい 花粉採取 人工授粉	4/上	葯採取機 開葯機 花粉交配機	1	12	12	純花粉 8g 石松子 80g 2回	<ul style="list-style-type: none"> ・子花、果そう葉の無い花、主枝、垂主枝の先端の花は摘除する。 ・花粉は石松子で10倍に希釈し、3～4分と8分咲の時に授粉する。
摘果	粗摘果	4/中		1	25	25		<ul style="list-style-type: none"> ・粗摘果では果そうの2～4番果の中から横～斜め下向きの正常果を残す。 ・仕上げ摘果は、小玉果、変形果を主体に行う。 ・子花果、及び無着葉短果枝の果実は摘除する。 ・10a当たり着果数、収量の目安 10,000果×350g=3,500kg
	仕上げ摘果	5/上		1	19	19		

3-1. 技術体系(なし:幸水、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
熟期促進処理	ジベレリンペースト塗布	4/下		1	12	12	ジベレリンペースト 200g	・満開30～40日後に20～30mgを果柄に塗布する。果実には付着しないよう十分に注意する。
収穫出荷	収穫選果箱詰め出荷	8/上～中	トラック運搬車	2	40	80	出荷箱	・収穫は気温の低い早朝に行う。 ・幸水カラーチャート値で2.5～3程度を目安に収穫する。 ・日持ちが悪いので、過熟にならないよう注意する。 ・果実はていねいに取り扱う。
新梢管理	芽かき	4/中～5/中		1	4	4		・主枝、亜主枝の上面から出た芽は除去する。 ・側枝の横面から出た枝を棚面に対して30～45度の角度に誘引する。
	新梢誘引	6/上～下		1	16	16	誘引ひも 3巻	
防蛾灯の設置	LED黄色灯点灯保全	6/下～8/中		1	1	1	LEDシンター灯 6基/7年	・580nm付近に最大波長があるLED黄色灯を選ぶ。 ・収穫30日前～収穫終了の期間、日没後から夜明けまで点灯する。 ・チャバネアカカメムシには忌避効果はあるが、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシに対しては効果が低いので、発生に注意する。
その他	棚の補強、農道、防風垣補修、灌水	1～12月		1	9	9		・梅雨明け後、必要に応じて灌水する。
計						272		

3-2. 技術体系(なし: 豊水、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	12～ 1月		1	70	70	誘引ひも 3巻	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に縮間伐を行う。 ・主枝数 3本 ・主枝・垂主枝の先端は強めに切り返す。 ・長大化した側枝は更新する。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断結果に基づいて施用する。 ・土壌改良資材は施用後、土とかき混ぜる。 ・2～3年に1回を目標に、樹間を部分的に軽く中耕する。
草生管理	草刈り	4月 ～ 9月	ハンマー ナイフモア	1	4	4	稲わら 1t	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の乾燥防止のため梅雨明け前に主幹周辺に敷きわらをする。 ・できるだけ草刈りを行い、地力増進に努める。
施肥	春肥 礼肥	2/中 9/中	運搬車	1	4	4	配合肥料 (N:8%)200kg	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の窒素分施割合 春肥:80% 礼肥:20% ・施肥量は土質、樹勢、収量等により調整する。 ・生育の旺盛な園では施肥量を控えめにする。
防除	薬剤散布	3～ 12月	SS	1	9.5	9.5	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生動向を十分に把握し、適期防除に努める。 ・無袋なので、特に輪紋病、黒星病、カメシ類の発生に注意する。 ・薬剤散布は県病害虫防除基準による。
摘らい 授粉	摘らい 花粉採取 人工授粉	3/下 ～ 4/上	薬採取機 開薬機 花粉交配機	1	12	12	純花粉 8g 石松子 80g 2回	<ul style="list-style-type: none"> ・子花、果そう葉の無い花、主枝、垂主枝の先端の花は摘除する。 ・花粉は石松子で10倍に希釈し、3～4分と8分咲の時に授粉する。
摘果	粗摘果	4/下		1	25	25		<ul style="list-style-type: none"> ・粗摘果では果そうの2～4番果の中から横～斜め下向きの正常果を残す。 ・仕上げ摘果は、小玉果、変形果を主体に行う。 ・子花果、及び無着葉短果枝の果実は摘除する。 ・10a当たり着果数、収量の目安 10,000果×400g=4,000kg
	仕上げ摘果	5/中		1	19	19		

3-2. 技術体系(なし: 豊水、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
収穫出荷	収穫選果箱詰め出荷	8/下 ~ 9/中	トラック運搬車	2	40	80	出荷箱	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は気温の低い午前中に行う。 ・豊水カラーチャート値で2.5~3程度を目安に収穫する。 ・日持ちが悪いので、過熟にならないよう注意する。 ・果実はていねいに取り扱う。
新梢管理	芽かき	3/下 ~ 4/中		1	5	5	誘引ひも 3巻	<ul style="list-style-type: none"> ・主枝、垂主枝の上面から出た芽は除去する。 ・側枝の横面から出た枝を棚面に対して30~45度の角度に誘引する。
	新梢誘引	6/上 ~ 中		1	10	10		
防蛾灯の設置	LED黄色灯点灯 保全	7/上 ~ 9/中		1	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・580nm付近に最大波長があるLED黄色灯を選ぶ。 ・収穫30日前~収穫終了の期間、日没後から夜明けまで点灯する。 ・チャバネアカカメムシには忌避効果はあるが、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシに対しては効果が低いので、発生に注意する。
その他	棚の補強、農道、防風垣補修、灌水	1~ 12月		1	9	9		<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨明け後、必要に応じて灌水する。 ・台風に備えて、棚面が風で揺れないようパイプの補強を入れる。
計						255.5		

3-3. 技術体系(なし:あきづき、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	12～ 1月		1	70	70	誘引ひも 3巻	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に縮間伐を行う。 ・主枝数 3本 ・主枝・垂主枝の先端は強めに切り返す。 ・長大化した側枝は更新する。 ・着果数を確保するために、短果枝と長果枝の両方を利用する。 ・あきづきは着果痕に短果枝が着生しないため、長い予備枝を多数配置し、積極的に側枝を更新する。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断結果に基づいて施用する。 ・土壌改良資材は施用後、土とかき混ぜる。 ・2～3年に1回を目標に、樹間を部分的に軽く中耕する。
草生管理	草刈り	4月 ～ 9月	ハンマー ナイフモア	1	4	4	稲わら 1t	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の乾燥防止のため梅雨明け前に主幹周辺に敷きわらをする。 ・できるだけ草刈りを行い、地力増進に努める。
施肥	春肥 礼肥	2/中 9/中	運搬車	1	4	4	配合肥料 (N:8%)200kg	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の窒素分施肥割合 春肥:80% 礼肥:20% ・施肥量は土質、樹勢、収量等により調整する。 ・生育の旺盛な園では施肥量を控えめにする。
防除	薬剤散布	3～ 12月	SS	1	9.5	9.5	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生動向を十分に把握し、適期防除に努める。 ・無袋なので、特に輪紋病、黒星病、カメシ類の発生に注意する。 ・薬剤散布は県病害虫防除基準による。
摘らい授粉	摘らい 花粉採取 人工授粉	3/下 ～ 4/上	葯採取機 開葯機 花粉交配機	1	12	12	純花粉 8g 石松子 80g 2回	<ul style="list-style-type: none"> ・子花、主枝、垂主枝の先端の花は摘除する。 ・花粉は石松子で10倍に希釈し、3～4分と8分咲の時に授粉する。

3-3. 技術体系(なし:あきづき、無袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果	粗摘果	4/下		1	25	25		<ul style="list-style-type: none"> ・あきづきは、果そう葉のない短果枝の割合が多い。 ・着果数を確保するために <ol style="list-style-type: none"> ①短果枝(果そう葉なし) ②長果枝(果そう葉あり) ③短果枝(果そう葉あり)の順で摘果を行う。 10aあたり着果数、収量の目安 8,000~9,000果×450~500g=4,000~4,500kg
	仕上げ摘果	5/中		1	19	19		
収穫出荷	収穫選果箱詰め出荷	9月	トラック運搬車	2	40	80	出荷箱	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は気温の低い午前中に行う。 ・豊水カラーチャート値で5程度を目安に収穫する。 ・日持ちが悪いので、過熟にならないよう注意する。 ・果実はていねいに取り扱う。
新梢管理	芽かき	3/下~4/中		1	5	5		<ul style="list-style-type: none"> ・主枝、垂主枝の上面から出た芽は除去する。 ・側枝の横面から出た枝を棚面に対して30~45度の角度に誘引する。 ・幸水や豊水よりも枝が硬く、棚付け時に枝が折れやすいので注意する。
	新梢誘引	6/上~中		1	10	10	誘引ひも 3巻	
防蛾灯の設置	LED黄色灯点灯 保全	7/上~9/下		1	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・580nm付近に最大波長があるLED黄色灯を選ぶ。 ・収穫30日前~収穫終了の期間、日没後から夜明けまで点灯する。 ・チャバネアカカメムシには忌避効果はあるが、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシに対しては効果が低いので、発生に注意する。
その他	棚の補強、農道、防風垣補修、灌水	1~12月		1	9	9		<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨明け後、必要に応じて灌水する。 ・台風に向けて、棚面が風で揺れないようパイプの補強を入れる。
計						255.5		

3-4. 技術体系(なし:新高、有袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	12~ 1月		1	70	70	誘引ひも 3巻	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に縮間伐を行う。 ・主枝・亜主枝の先端は強めに切り返す。 ・長大化した側枝は更新する。 ・短果枝群はできるだけ花芽を整理する。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断結果に基づいて施用する。 ・土壌改良資材は施用後、土とかき混ぜる。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に軽く中耕する。
草生管理	草刈り	4月 ~ 9月	ハンマーナイフモア	1	4	4	稲わら 1t	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の乾燥防止のため梅雨明け前に主幹周辺に敷きわらをする。 ・できるだけ草刈りを行い、地力増進に努める。
施肥	春肥 礼肥	2/中 10/中	運搬車	1	4	4	配合肥料 (N:8%)200kg	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の窒素分施割合 春肥:80% 礼肥:20% ・施肥量は土質、樹勢、収量等により調整する。 ・生育の旺盛な園では施肥量を控えめにする。
防除	薬剤散布	3~ 12月	SS	1	10	10	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生動向を十分に把握し、適期防除に努める。 ・薬剤散布は県病害虫防除基準による。
摘らい授粉	摘らい 花粉採取 人工授粉	3/下 ~ 4/上	花粉交配機	1	12	12	純花粉 8g 石松子 80g 2回	<ul style="list-style-type: none"> ・子花、果そう葉の無い花、主枝、亜主枝の先端の花は摘除する。 ・新高は花粉がないので、前年の他品種の花粉を冷凍貯蔵しておき、発芽テストを行って使用する。 ・花粉は石松子で10倍に希釈し、3~4分咲の時と8分咲の時に授粉する。
摘果	粗摘果	4/下		1	35	35		<ul style="list-style-type: none"> ・果房での着果位置2~4番果の中から横~斜め下向きの正常果を残す。 ・仕上げ摘果は、小玉果、変形果を主体に行う。 ・子持ち花果、及び無着葉短果枝の果実は摘除する。 ・10a当たり着果数、収量の目安 6,000果×800g=4,800kg
	仕上げ摘果	5/中		1	9	9		

3-4. 技術体系(なし:新高、有袋栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
袋かけ	大袋かけ	5/中 ~ 6/上		1	40	40	新高用 6,000枚	・省力化のため、大袋1回かけとし、果梗の強度を確認してからかける。ただし、輪紋病多発園では小袋、大袋の2回掛けとする。
収穫出荷	収穫選果箱詰め出荷	9/下 ~ 10/上	トラック 運搬車	2	26.5	53	出荷箱	・果皮色に緑色が残っている果実は果肉が硬く酸味も強いので、完全に黄褐色から赤褐色に着色した果実から収穫する。
新梢管理	芽かき	3/下 ~ 4/中		1	5	5		・主枝、垂主枝の上面から出た芽は除去する。 ・側枝の横面から出た枝を棚面に対して30~45度の角度に誘引する。
	新梢誘引	6/上 ~ 中		1	10	10	誘引ひも 3巻	
その他	棚の補強、農道、防風垣補修、灌水	1~ 12月		1	9	9		・梅雨明け後、必要に応じて灌水する。 ・台風に備えて、棚面が風で揺れないようパイプの補強を入れる。
計						268		

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
幸水 (露地)		施肥	↑ ※♂ 摘果			誘引		■◆◆ 施肥			土壌改良	せん定
豊水 (露地)		施肥	↑ ※♂ 摘果			誘引		■◆◆ 施肥			土壌改良	せん定
あきづき (露地)		施肥	↑ ※♂ 摘果			誘引		■◆◆ 施肥			土壌改良	せん定
新高 (露地)		施肥	↑ ※♂ 摘果		袋かけ	誘引		■◆◆ 施肥			土壌改良	せん定

注) 生育ステージ記号 ↑: 発芽 ※: 開花 ♂: 人工授粉 ■: 収穫 ◆: 出荷

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1) 季水(無袋)	高田・作葉/月																								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計												
間伐等心定	20	20										10	20												
土壌改良													7												
草生管理													4												
施肥		2						2					4												
防除			0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5			9												
焼払い(肥料)				12									12												
換葉				25	19								44												
前期収穫処理					12			20	60				92												
後期収穫						2							2												
防除(肥料)						5	6						11												
防除(肥料)							0.5						0.5												
その他			1			1							2												
計	20	20	0	2	1	0.5	13.5	27.5	12.5	20	2.5	1	6.5	8.5	2	1	3	0	0	1.5	0	0	10	20.5	272
月計	40	3	2	53.5	23.5	20	3.5	83.5	4	1.5	7	30.5													

2) 季水(無袋)

高田・作葉/月	高田・作葉/月																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計													
間伐等心定	20	20											12													
土壌改良													7													
草生管理													4													
施肥		2											4													
防除			0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5			9.5													
焼払い(肥料)				6									12													
換葉				6	25	19							44													
収穫出荷									30	30	20		80													
薪割管理						5	5						15													
防除(肥料)							0.5						0.5													
その他			1			1							2													
計	20	20	0	3	0	0.5	8.5	7.5	3.5	25.5	1	19.5	1	6.5	8.5	2	1	3	0	0	1.5	0	0	10	20.5	265.5
月計	40	3	10	36.5	21.5	13.5	4	32	56	1.5	7	30.5														

3) あぶき(無袋)

高田・作葉/月	高田・作葉/月																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計													
間伐等心定	20	20											12													
土壌改良													7													
草生管理													4													
施肥		2											4													
防除			0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5			9.5													
焼払い(肥料)				6									12													
換葉				6	25	19							44													
収穫出荷									30	30	20		80													
薪割管理						5	5						15													
防除(肥料)							0.5						0.5													
その他			1			1							2													
計	20	20	0	3	0	0.5	8.5	7.5	3.5	25.5	1	19.5	1	6.5	8.5	2	1	3	0	0	1.5	0	0	10	20.5	265.5
月計	40	3	10	36.5	21.5	13.5	4	2	86	1.5	7	30.5														

4) 新高(有袋)

高田・作葉/月	高田・作葉/月																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計													
間伐等心定	20	20											12													
土壌改良													7													
草生管理													4													
施肥		2											4													
防除			0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5			10													
焼払い(肥料)				6									12													
換葉				6	35	35							44													
袋かけ										20	30		50													
収穫出荷													40													
薪割管理						5	5						15													
防除(肥料)							0.5						0.5													
その他			1			1							2													
計	20	20	0	3	0	0.5	8.5	7.5	3.5	35.5	1	29.5	1	6.5	8.5	2	1	3	0	0	1.5	0	0	10	20.5	266
月計	40	3	10	46.5	41.5	23.5	4	1.5	24.5	3	7	30.5														

6. 総労働時間

総労働時間	高田・作葉/月																																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																						
300	300	0	6	39	0	5.5	17	103.5	124.5	383.5	72	281.5	55	137.5	97.5	27	23.5	25.5	7.5	64	198.5	190	297	241	120	132	285	2	105	0	0	150	307.5	3852	
うち家畜労働	177.7	177.7	0.0	6.0	380.0	0.0	5.5	170	103.5	130.5	124.5	177.7	72.0	177.7	55.0	27.0	23.5	25.5	7.5	64.0	177.7	177.7	177.7	177.7	120.0	132.0	285	2.0	105.0	0.0	0.0	150.0	177.7	3,072	
うち雇用労働	122.3	122.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	103.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	12.3	79.3	63.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	129.8	860